

Profile



討論資料

元環境副大臣、前内閣委員長



昭和44年10月7日生まれ(45歳)
 学習院初等科、開成中・高校、東京大学法学部卒業、
 英国ケブリッジ大学修士課程修了。国土交通省、外務省勤務。
 03年11月 公募・予備選を経て、衆議院総選挙で初当選(当選4回)。
 06年10月 最年少で自民党副幹事長に就任。
 07年 8月 多くの総理大臣を輩出した自民党青年局長に就任。
 09年10月 「次の内閣」の大臣に相当する自民党内閣部会長に就任。
 10年 9月 国会論戦の主力、自民党国会対策副委員長に就任。
 12年10月 自民党シャトウサキヒソト総務大臣に就任。
 12年12月 原発事故等を担当する環境兼内閣府副大臣に就任(2期)。
 14年 9月 与野党をまとめる国会の要、衆議院内閣委員長に就任。

ごあいさつ
~これまでの2年間を思い、これからの未来を誓う~



内閣委員長として衆議院本会議で報告

Career

【衆議院】
 衆議院内閣委員長
 【自民党】
 東日本大震災復興加速化本部事務局長、
 環境・温暖化対策調査会副会長、
 行政改革推進本部副本部長、雇用問題調査会副会長 他
 【議員連盟】
 国民歯科問題議連幹事長、東京尚歯会会長、
 国民医療を守る議員の会副会長、全日本不動産推進議連事務局長、
 ペット関連産業・人材育成議連幹事長代理、
 若者を応援する若手議員の会副会長 他
 【その他】
 日本眼科医連盟参与、裏千家淡交会東京第八西支部副支部長、
 東京都市町村ソフトボール連盟会長、西多摩サッカー連盟会長 他

平成24年12月の政権交代とともに、第2次安倍内閣の環境兼内閣府副大臣に就任し、2期1年9ヶ月間務めました。副大臣在任中は、地球温暖化対策や自然環境の保護、ペットの愛護、PM2.5をはじめとした環境汚染問題など広く環境行政に取り組みました。その中で最も注力したのは、福島第一原発事故と東日本大震災からの復興でした。毎週、福島を中心に被災地に通い、被災者の皆さんに寄り添った対応を心がけてまいりました。困難な職責ではありましたが、おかげさまで、中間貯蔵施設の受入れ合意や除染の加速化など一定の成果を挙げることができたと自負しています。

本年9月には衆議院内閣委員長に就任しました。国会の中でも最も重要な委員会であり、経済対策や社会保障制度改革、TPP、警察から、安倍内閣の最重要課題の「女性の活躍」まで非常に幅広い分野を所管しています。委員長として、菅内閣官房長官をはじめ6人の閣僚と40人の与野党議員を取りまとめ、政策を前に進めています。

今後の課題としては、まずはアベノミクスの効果を地方や中小企業、家計にも普及させ、国民が実感できる真のデフレ脱却、景気回復を実現することです。その後、苦渋の決断ですが、消費税などの国民のご負担もお願いし、国民が安心できるように年金や医療、介護、子育て支援などの社会保障制度を充実させてまいります。

日本の国の明るい未来を実現するため、地元・西多摩の代表として、皆さまのご期待に応えるよう、なお一層頑張っております。

Others

住所：青梅市河辺町在住
 家族：妻と2男1女の5人家族
 趣味：お祭、マラソン、温泉巡り
 好きな言葉：「初心忘れるべからず」



西多摩っ子NEWS特別版 2014年11月

前衆議院議員

井上信治

信頼できる政治

井上信治後援会
 青梅事務所 国会事務所
 〒198-0024 青梅市新町3-39-1 〒100-8981 千代田区永田町2-2-1-317
 TEL 0428-32-8182 FAX 0428-32-8183 TEL 03-3508-7328 FAX 03-3508-3328

Mail: inoue.office@carrot.ocn.ne.jp
 公式サイト http://www.inoue-s.jp ブログ http://blog.m.livedoor.jp/inoue_shinji

環境副大臣、内閣府 副大臣の軌跡 2012.12~2014.9

とても困難だが重要な職責を担い、大変多忙かつ充実した日々でした。政府の職員をはじめ関係者のお支えに心から感謝します。

福島のために

通算100日近く出張。被災者に寄り添い、引き続きライフワークとして福島の復興に取り組みます。



政府・国会で

実は、副大臣として最も心を砕いたのは、リーダーシップを発揮するため、部下である官僚の皆さんと信頼関係を築くことでした。



日本中で活躍

通算174日出張。現場主義を徹底し、いつも汚れた防災服、作業服、レンジャー服姿でした!?



世界中で活躍

通算7カ国、約19万キロ(地球約5周分)出張。おかげで、大好きな青梅大祭も2年連続欠席でした!?



最終処分場の整備へ

誰もが嫌がるが誰かがやらなければ皆困ってしまう、とても難しい課題です。ぜひご理解を。



メディア出演等も多く

国民に正確な情報を幅広く伝え、理解を求めていかなければいけない、という信念でした。

